



正しい避難の流れを知り、自分で判断できるようにしましょう。

「自分(だけ)は大丈夫」「まだ平気」「たいしたことにならない(はず)」といった判断が一番危険です。

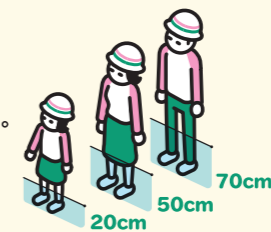
避難の判断に必要な情報や正しい避難のしかたについて知り、水害の際、

自ら考え行動できるようになりましょう。

人が行動できなくなる水の深さ

- 水の深さがひざを超えると、歩くのが難しくなります。
- 子ども……………水位20cm
- 大人の女性……………水位50cm
- 大人の男性……………水位70cm

※流れが速い場合などは状況が異なりますので目安として知っておきましょう。



浸水した時の注意点

道路脇の側溝や段差、開いたマンホールのふたなどは、浸水すると見えなくなってしまう。冠水している道を通っての避難は、できるだけやめましょう。



事前の準備：避難先を想定しておく

情報収集し、避難の判断をする

避難する

住んでいる場所の特徴を確認しよう

P15-16 洪水ハザードマップ

- ・ 浸水する深さ ()m
- ・ 想定されている氾濫河川との距離 ()m
- ・ 指定緊急避難場所等への距離 ()m

知っておこう

- 500m歩くのにかかる時間(目安)
- ・ 大人 約6～8分
- ・ 高齢者 約10分

P17-18 土砂災害ハザードマップ

- ・ 住んでいる場所が土砂災害警戒区域等に (入っている・入っていない)
- ・ 避難経路が土砂災害警戒区域等に (入っている・入っていない)

避難場所を想定しておこう

- [CHECK]
- 自宅の2階の屋根まで浸水するとき
 - 長期間の浸水が予想されるとき
 - 土砂災害警戒区域等に入っている
 - 時間と安全な避難経路が確保できるとき
 - 家屋倒壊等氾濫想定区域に入っている
- 指定緊急避難場所への「立退き避難」**
- ・ 避難の原則は「早期の立退き避難」。
 - ・ 事前の準備と早めの判断&行動が必要です。

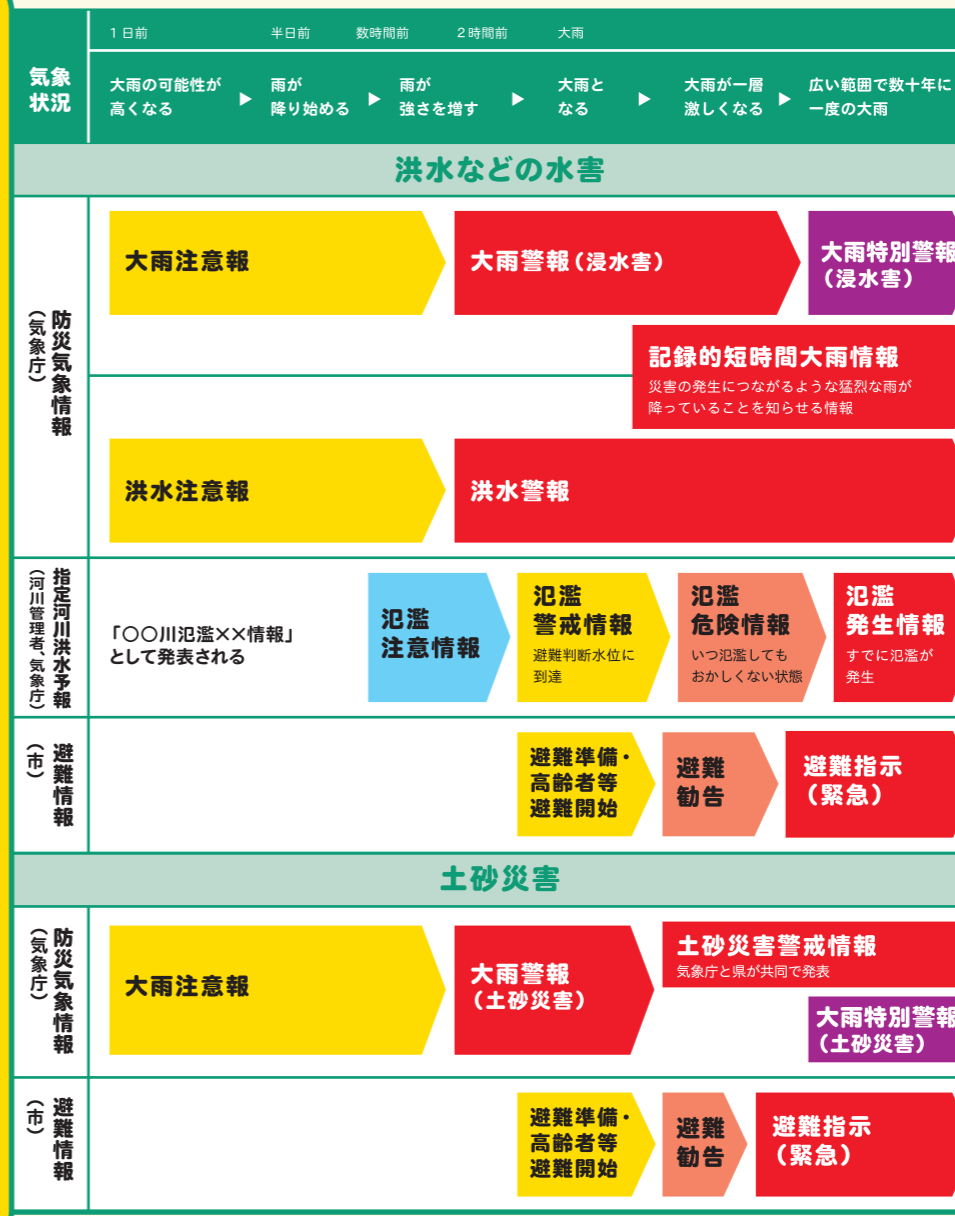
- [CHECK]
- 遠方まで時間をかけての避難が困難なとき
- 近隣の安全な場所への「立退き避難」**
- 安全な場所の例：
- ・ 4階建て以上の強固なビル(浸水5mの場合)
 - ・ 小高い場所

- [CHECK]
- 外へ出る方がかえって危険なとき
- 家の中の安全な場所で「屋内安全確保」**
- 安全な場所の例：
- ・ 上の階
 - ・ がけから離れた部屋
- ・ 夜間や激しい降雨で避難路上の危険箇所が分かりにくい
- ・ 流れがあり、ひざ上まで浸水している(50cm以上)
- ・ 浸水は20cm程度だが、水の流れる速度が速い
- ・ 浸水は10cm程度だが、用水路などの位置が不明で転落のおそれがある

いる場所とその時の状況で避難行動は変わります

天気が荒れそうな時は情報に注意する

どのように避難するかを判断する



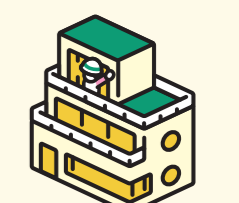
立退き避難 指定緊急避難場所



立退き避難 近くの安全な場所



屋内安全確保 2階以上



いつ避難するか判断材料に

市が出す 避難情報

避難準備・高齢者等避難開始

避難に時間を要する方 ⇒ 避難を開始してください。
高齢の方、障害のある方、乳幼児などその支援者は避難を開始しましょう。

その他の方 ⇒ いつでも避難できるよう準備してください。
避難の準備を整え「防災気象情報」や「水位情報」等に注意し、危険だと思ったら早めに避難をしてください。

避難勧告

避難場所へ速やかに避難してください。
避難場所への避難が危険な場合は「近くの安全な場所」か「自宅内のより安全な場所」へ避難しましょう。

避難指示(緊急)

まだ避難されていない方 ⇒ すぐに(緊急に)避難してください。
避難場所への避難が危険な場合は「近くの安全な場所」か「自宅内のより安全な場所」へ避難しましょう。

※急激な水位の上昇のおそれがある川沿いの居住者、土砂災害警戒区域等の方は早めの避難を。